

みんなの笑顔がみたいからがんばれる!!



井坂甲子朗さん

「お祝い事は立派に作らないと」と頼もしく語る井坂さん。

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.67

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。巳年とは胎児を表し、脱皮をすることから再生を意味するそうです。健やかな一年でありますように。堅倉地区にある柴高稲荷神社の境内にお邪魔して柴高老人会のみなさんが丹精込めて製作している「門松」作りを取材し、米寿を迎えられた会長の井坂甲子朗さんからお話を伺いました。

仲間と作業をするから楽しい

柴高神社の境内に暖かな日差しが差し込み、たき火を囲みながら井坂さんからお話を聞いた。周りでは老人会の会員のみなさんがそれぞれに作業をし、ひとりひとりの笑顔が眩しかった。ほっこりとした雰囲気の中で、新しい年の慶びを祝う「門松」が創り出される瞬間に立ち会わせて頂いた。

二番肝心の竹は、柴高老人会会員の立原さんの竹林から孟宗竹を切り出してきた。もちろんお礼はするが、昔は買っていたんだ。今は竹を利用する人が少なくなってしまう、良い竹の子を出すのには抜かなくてはならないから、お互いいい関係だよ。年寄りだから長い竹を切って引っぱり出すのが大変なんだ。今はたくさんの方がいるが、最初は4人で門松づくりをやっていたんだ。人手不足で区長さんに相談して若い人たちにも入ってもらい人が増えた。菰(こも)は

昔は薄いのを買っていたが、私のしゃでい(弟)が藁から編んで作ってくれて、松は最後の鈴木農園から買ってくる。私が老人会に入った頃の門松は、杭を打って松と笹のついた細い竹を組み合わせ縛っただけだった。昔は松がいっぱいあって、男松と女松を組み合わせたんだよ。その次は倒れないように新に結わいた門松を作った。色々と改善して現在の立派な形になった。私が一番古くて、新しく入った人たちも3年になるから藁の縛り方も上手になったもんだ。若い人たちが知り合いから新しい知識なども仕入れてきて、やりやすい方法も取り入れてきた。今年、初めて重曹を水で溶いたものできれいに竹を拭いてみたんだよ。仕上げには潤滑油で磨いて艶をだすんだ」と丁寧に説明してくれた。門松づくりは柴高老人会では一番大きな行事で人手のない時は3〜4日かかったが、今は2日で作業が終わるようになった。昨年、納めた門松は11対。前回より2対増えたそうだ。「竹を削って、曲りを見て削る。しるしを付けたの

が間違っていると上手くいかない・・・ピタッとくっ付いていないとだめだよなあ。ちなみに菰に巻く縄も下から七・五・三と巻いて、松を挿す時もかっこよく挿すと見栄えがいいんだ。門松ってもんは恰好もんだから同じ材料で見栄え良く作りたいじゃないか。」と笑顔で話してくれた。会員の皆さんで力を合わせて創り上げた門松は、縁起を担いで12月25日大安の午前中に茨城空港や市役所・公民館・みのりれ等へ届けられた。早速そこには、どっしりと構えた立派な姿があつて見えているだけでも幸せな気持ちになった。

井坂さんは、朝顔や菊も丹精込めて作っている。「柴高の老人会は気が揃っているからグラウンドゴルフでも何でも人が集まる。毎週土曜日はグラウンドゴルフの練習をして、楽しいよ」話してくれた井坂さんの笑顔がとても印象的だった。

藤田佐知子

※菰(こも)・・・イネ科の多年草の「マコモ」を荒

く編んだ敷物